

東京キリストの教会 QT シリーズ モーセ

第二週 2020年10月12日～10月18日

出エジプト記 5-13 章

<10月12日(月) ファラオとの交渉 出エジプト 5:1-9>

その後、モーセとアロンはファラオのもとを訪れて言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『私の民を去らせ、私のために荒れ野で祭りを行わせなさい。』」ファラオは答えた。「主とは何者か。私はその声に聞き従い、イスラエルを去らせなければならないとは。私は主を知らないし、イスラエルを去らせはしない。」二人は言った。「ヘブライ人の神が私たちに現れました。どうか、私たちに三日の道のりをかけて荒れ野を行かせ、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。そうしなければ、主は疫病や剣で私たちを襲うでしょう。」エジプトの王は二人に言った。「モーセとアロン、お前たちはなぜ民をその仕事から引き離そうとするのか。自分たちの労働に戻れ。」また、ファラオは言った。「今や、この地の民は増えているのに、お前たちは彼らの労働を休ませようとするのか。」ファラオはその日、民を追い使う者と下役の者たちに命じた。「今までのように、れんがのためのわらをあの民に与えてはならない。自分たちでわらを集めに行かせよ。だが、これまでお前たちが課して、彼らに作らせていたれんがの量は減

らしてはならない。彼らは怠け者なのだ。だから、自分たちの神にいけにえを献げに行きたいなどと叫ぶのだ。あの者たちの仕事を増やすべきだ。そうすれば、彼らはそれにかかりきりになり、偽りの言葉に目を向けなくなるだろう。」

解説

召命を受けてから抵抗を示していたモーセでしたが、ついにファラオのもとを訪れ、大胆な要求をしました。ファラオの応答は全く耳を貸さない完全な拒否でした。モーセとアロンは丁寧な表現を使ったようですが、イスラエルの神・ヘブライ人の神が現れ、語ったことを曲げることなく伝えました。しかしながら、このことのせいでレンガ作りのためのわらが与えられないことにもなってしまい、この後の個所でモーセとアロンはイスラエルの民から責められることになりました。実際エジプトのピトムという場所ではわらが全く入っていないレンガの遺跡が発見されています。

質問／実践

- ・モーセはどのような確信と思いでファラオのもとを訪れ、神様からの命令を伝えたとおもいますか？
- ・なぜまたは何によってモーセはファラオに立ち向かう心へと変えられたのでしょうか？
- ・ファラオから完全に拒絶され、民からも責められたモーセはどのような思いに

なっただと思いますか？

・わたしたちはこのファラオのような応答をされる時、どのように反応するでしょうか？

・今日わたしたちが立ち向かうべき“ファラオ”は何でしょうか？具体的に書き出し、祈り、勇気を持って立ち向かいましょう。

<10月13日（火）モーセの使命 出エジプト 6:1-8>

さて、主はモーセに言われた。「私がファラオに行くことを、今こそあなたは見るだろう。すなわち、力強い手によってファラオは彼らを去らせ、力強い手によってファラオは彼らをその地から追い出すことになる。」また、神はモーセに告げた。「私は主である。私は、アブラハム、イサク、そしてヤコブに全能の神として現れたが、主という私の名は彼らに知らせなかった。私はまた、彼らと契約を立て、カナンの地、彼らがそこにとどまっていた寄留地を与えることにした。私はまた、エジプト人が奴隷として働かせているイスラエルの人々の呻き声を聞き、私の契約を思い起こした。それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。『私は主である。あなたがたをエジプトの苦役の下から導き出し、過酷な労働から救い出す。またあなたがたを、伸ばした腕と大いなる裁きによって贖う。私はあなたがたを私の民とし、私はあなたがたの神となる。あなたがたは、私が主、あな

たがたの神であり、あなたがたをエジプトの苦役の下から導き出す者であることを知るようになる。私は、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓った地にあなたがたを導き入れ、それをあなたがたに所有させる。私は主である。』』

解説

モーセが再びファラオと対峙していくために、神様の“力強い手”が働くことを、神様はモーセに約束しました。そして、改めて神様自身の性格と性質を表されました。まず特徴的な表現は「私は主である」という表現でした。この箇所だけで4回繰り返しました。そこからどのような主であることを示しています。4-5節では、契約、約束を与える性質を伝えています。6-8節では、具体的に、救い出す神、イスラエルを神の民にする神、約束の土地に導き出す神であることを示しています。

質問／実践

- ・1節では“力強い手”という表現が強調されています。神様はモーセにどのようなことを伝えたかったと思いますか？
- ・「私は主である」という言葉は、モーセにとってどのような意味であったと思いますか？
- ・なぜ神様はモーセに対して具体的にご自分の性格と性質を示されたと思いますか？

・「私は主である」という言葉は、今日のわたしたちにとってどのような意味になっているのでしょうか？ イエスは今日もわたしたちの主でしょうか？

・この個所で表されている神様の性質は、私たちの救いにどのようにつながっていると思いますか？

<10月14日（水）10の災い（前半） 出エジプト 7:1-5>

（出エジプト 7-8 参照）

そこで、主はモーセに言われた。「見よ、私はあなたをファラオに対して神とし、兄のアロンはあなたの預言者となる。私が命じるすべてのことをあなたが告げれば、あなたの兄アロンは、イスラエルの人々をその国から去らせるようファラオに告げる。しかし、私はファラオの心をかたくなにするので、私がしるしと奇跡をエジプトの地で重ねても、ファラオはあなたがたの言うことを聞かない。それで、私はエジプトに手を下し、大いなる裁きによって、私の集団、私の民イスラエルの人々をエジプトの地から導き出す。私がエジプトの上に手を伸ばし、イスラエルの人々を彼らの中から導き出したとき、エジプト人は私が主であることを知るようになる。」そこで、モーセとアロンは、主が彼らに命じられたとおりに行った。

解説

この個所ではファラオに下された10の災いの前半を深めていきます。再びモーセとアロンは神様によってファラオのもとに遣わされました。しかし、神様の言葉は、最終的には民をエジプトから導き出すが、ファラオは心をかたくなにして聞き入れることはないということを告げました。それでもモーセとアロンは神様に命じられたとおりに行動しました。エジプトに下された災いの最初の4つは血の災い、蛙の災い、ぶよの災い、あぶの災い、でした。これらは当時のエジプトの神々に挑戦したものと言われています。またこれらの災いは黙示録にも描写されていて（黙示録16章）、神の怒りと力が示されています。この7-8章の中でも、ファラオの心がかたくな（4回）、頑迷（3回）になることが描かれていて（新共同訳）、この個所のひとつのテーマとなっています。同時に災いが重なる中で、少しずつファラオの心が追い詰められて、条件を妥協しようとする姿も見ることができます。

質問／実践

- ・モーセとアロンがファラオに告げても心をかたくなにして、話を聞かないことがはじめから示されていたにも関わらず、モーセとアロンは主に命じられたとおりに行動しました。なぜ二人はそれができたと思いますか？
- ・ひとつひとつの災いを通して、神様は何を示そうとしたと思いますか？
- ・ファラオが心をかたくなにし続けたことはどのような意味があると思いますか？

か？ローマ 9:17-18 も参照に深めてみましょう。

・神様の力は私たちの人生においても力強いでしょうか？私たちの内にある偽物の神よりも力強いでしょうか？神様の力強さを具体的に書き出してみましょう。

<10月15日(木) 10の災い(後半) 出エジプト 10:1-2>

(出エジプト 9-10 参照)

主はモーセに言われた。「ファラオのもとに行きなさい。彼の心とその家臣の心をかたくなにしたのは、この私である。それは、私がこうしたしるしを彼らの中で行うためであり、また、私がエジプトにどのように厳しく接したか、どのようなしるしを行ったかをあなたが子や孫に語り伝え、私が主であることをあなたがたが知るためである。」モーセとアロンはファラオのもとを訪れ、彼に言った。「ヘブライ人の神、主はこう言われる。『いつまで私の前にへりくだるのを拒むのか。私の民を去らせ、私に仕えさせよ。もしもあなたが私の民を去らせることを拒むのなら、私は明日、あなたの領土にばったを送り込む。ばったが地の面を覆い、地面を見ることができなくなる。そしてそれは、雹を免れて残されていたものを食い尽くし、野に生えているあなたがたの木をすべて食い尽くす。さらに、あなたの家、家臣の家、すべてのエジプト人の家に溢れる。あなたの先祖た

ちも、先祖の先祖たちも、この土地に住むようになってから今日まで見たことのないものである。』』

解説

次に続く災いは、疫病、はれ物、雹、いなご、暗闇でした。これらも当時のエジプトの太陽神など神々に挑戦するものでした。壊滅的なダメージを受けて、段々とファラオの心は変化していくように見えますが、最終的には心をかたくなにすることが繰り返されていきます。その中で、なぜ災いが起き、ファラオが心をかたくなにするのかが、改めて伝えられました(10:1-2)。これらの災いは、最終的にファラオのかたくなさを砕くためではなく、むしろかたくなにして、神様の業が行われるためであり、神様が主であることを民が知るようになるためでした。災いのひどさやファラオの心のかたくなさ、またモーセとアロンの忠実さなど、深められる部分がある中で、常に神様が主導権を握り、最終的なゴールが神様であり、神様にフォーカスがある、このストーリーの全体像を、捉えていく必要があります。

質問／実践

- ・ 10 の災いを深めてみて、正直に何を感じるでしょうか？
- ・ 神様がファラオの心をかたくなにしたことは、なぜだと思えますか？
- ・ モーセとアロンはこの 10 の災いとファラオとのやり取りを通して、何を学ん

だと思えますか？

・私たちは心のかたくなさに目がいきがちでしょうか？その先の神様の業、栄光を考えていることができているでしょうか？

・私たちは自分たちの“災い”フォーカスでしょうか？それとも神様フォーカスでしょうか？

・今の自分たちの“災い”（問題・課題）が、この先神様の業が示されるものとなると考えられるものがあるでしょうか？具体的に書き出してみましよう。

<10月16日（金）初子の死と主の過越 出エジプト 12:3b-14>

（出エジプト 11-12 参照）

『この月の十日に、父祖の家ごとに、すなわち家族ごとにそれぞれ自分たちのために小羊一匹を用意しなさい。もし、家族が小さくて小羊一匹に見合わないなら、隣の家族と共に、人数に合わせて、それぞれ食べる量に見合う小羊を選びなさい。あなたがたの小羊は欠陥のない一歳の雄の小羊でなければならず、羊か山羊の中から一匹を選ばなければならない。あなたはそれを、この月の十四日まで取り分けておき、夕暮れにイスラエルの会衆は皆集まってそれを屠る。そして、その血を取って、小羊を食べる家の入り口の二本の柱と鴨居に塗る。その夜のうちに肉を火で焼き、種なしパンに苦菜を添えて食べる。それを生のまま、または

水で煮て食べてはならない。火で焼いて、頭も足も内臓も食べなければならない。
それを翌朝まで残してはならない。朝まで残ったものは、火で焼き尽くさなければ
ならない。それを食べるときは、腰に帯を締め、足にサンダルを履き、手に杖
を持って、急いで食べなさい。これが主の過越である。その夜、私はエジプトの
地を行き巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を打ち、ま
た、エジプトのすべての神々に裁きを行う。私は主である。あなたがたがいる家
の血は、あなたがたのしるしとなる。私はその血を見て、あなたがたのいる所を
過ぎ越す。こうして、エジプトの地を私が打つとき、滅ぼす者の災いはあなたが
たには及ばない。』」「この日は、あなたがたの記念となる。あなたがたはこれを
主の祭りとして祝い、とこしえの掟として代々にわたって祝いなさい。

解説

最後の災いは初子の死でした。10の災いはエジプトの神々に対抗する意味が
ありましたが、ファラオ自身がエジプトの神であり、神の子（化身）とされてい
ました。またファラオの初子は同じく神の子でした。神様は最終的に初子を撃た
れ、イスラエルの民はエジプトを脱出することになります。その時に行われ、取
り決められたのが、主の過越でした。主の過越はただの形式ではなく、神様の偉
大な業の現れであり、当時の人々にとって現実的な救いでした。屠った子羊の血
を柱と鴨居に塗り、実際の“過越”を経験しました。“その夜、私はエジプトの地

を歩き巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を打ち、また、エジプトのすべての神々に裁きを行う。私は主である。(12:12)”とあるように、主の過越がエジプトの初子の死を背景にしていることは、改めて救いについて、そして神様が主であるということの意味について深めることができます。

質問／実践

・なぜ初子の死が最後の災いであったと思いますか？

・主の過越は初子の死を背景としているとは、私たちの救いにとってどのような意味があると思いますか？

・神様の初子であるイエスが撃たれたことは、この初子の死とつながるでしょうか？

・「わたしは主である (12:12)」；この言葉は 10 の災いの中でも、主の過越の中でも、神様は何度も表現しました。神様はどのような主であるということを伝えようとしていると思いますか？

・過越は私たちの救いの原型となりました。この個所から、イエスの十字架、私たちの救いにつながることを、具体的に書き出してみましよう。

・私たちも恵みにより、主に“過ぎ越されました”。救いの恵みを書き出してみましよう。

<10月17日(土) 除酵祭 出エジプト 13:3-10>

(出エジプト 12:15-20 も参照)

モーセは民に言った。「あなたがたは、エジプトの地、奴隷の家から出たこの日を覚えておきなさい。主は力強い手によって、あなたがたをここから導き出されたからである。種を入れたパンは、食べてはならない。アビブの月の今日、あなたがたは出発する。カナン人、ヘト人、アモリ人、ヒビ人、エブス人の地、主があなたに与えると先祖に誓われた地、乳と蜜の流れる地に、主があなたを導き入れられたなら、あなたはこの月に次の儀式を守りなさい。七日間、あなたは種なしパンを食べなければならない。七日目は主の祭りである。その七日間、種なしパンを食べなければならない。あなたのもとに種入りパンがあってはならず、あなたの領地のどこにもパン種があってはならない。あなたは今日、息子たちに、『これは、私がエジプトを出るとき、主が私にしてくださったことによるのだ』と伝えなければならない。あなたは、この言葉を自分の手に付けてしるしとし、また、額に付けて記念としなさい。それは主の律法があなたの口にあるためであり、主が力強い手によって、あなたをエジプトから導き出されたからである。あなたはこの掟を毎年定められた時に守らなければならない。

解説

主の過越の際にもうひとつ定められた祭りがありました。それは除酵祭でし

た。聖書の中では過越祭と除酵祭を同じ祭りとして指している箇所もありますが、その形式は明確に区別されていました。12:15-20 にあるように、過越の次の日から7日間続けられる祭りでした。7日間、家から酵母を取り除く必要があり、酵母の入ったものを口にすることは、イスラエルの共同体から断たれることを意味しました(12:19)。それは、出エジプトの際に急がなければならず、酵母の入っていないパンを焼いたことを覚えるため、また酵母は時々不純や腐敗を意味し、神様のものとして共同体が純粋で清い心を持つように、すべての酵母を取り除く意味とされています。また、イスラエルの民が導き“出された”ことが、酵母が“出された”パンを食べることに結び付けられています(13:3、13:8)。

質問／実践

- ・イスラエルの民が、除酵祭によって、出エジプトで急いだことを覚えるとは、どのような神様の業や恵みを覚えたと思いますか？
- ・除酵祭は人々の心を純粋で清くすることを覚える祭りでもあります。私たちはどのようにして神様の前で、純粋さと清さを持つことができるでしょうか？
- ・酵母を入れないことは厳格なものでした。イスラエルの民はどのような心と態度で神様の掟を守ろうとしたと思いますか？
- ・除酵祭の観点から、私たちの救いを考えた時、改めてあるいは新しく注目すべき点はあるでしょうか？具体的に書き出して下さい。

・ぜひ、今週の聖餐式で、新しい思いを持って酵母の入っていないパンを食べ、救いの感謝を深めましょう。

<10月18日（日）初子の奉獻 出エジプト 13:1-2、11-16>

主はモーセに告げられた。「すべての初子を聖別して私に献げなさい。人も家畜も、イスラエルの人々の間で初めに胎を開くすべての初子は私のものである。」

…主があなたと先祖に誓われたとおり、カナン人の地に導き入れ、そこをあなたに与えられるとき、初めに胎を開くものはすべて、主に献げなければならない。

あなたの家畜の胎を最初に開くもので、雄はすべて主のものである。ろばの初子はすべて、小羊で贖わなければならない。もし贖わないならば、その首を折らなければならない。あなたの初子のうち、男の子はすべて、贖わなければならない。

将来、あなたの子が、『これはどういうことですか』とあなたに尋ねるときはこう答えなさい。『主は力強い手によって私たちをエジプトの地、奴隷の家から導き出してくださった。ファラオがかたくなになり、私たちを去らせないようにしたとき、主は、人の初子から家畜の初子まで、エジプトの地のすべての初子を殺された。それゆえ私は、初めに胎を開く雄をすべて主にいけにえとして献げ、また、自分の初子である息子をすべて贖うのである。』あなたはこの言葉を手に付けてしるしとし、額に付けて記章としなさい。主は力強い手によって私たちをエ

ジプトから導き出されたのである。」

解説

出エジプト（主の過越）にもうひとつ意味づけられたものがありました。それは初子の奉獻でした。それは家畜でも人間でもその初子は神様のものとして、聖別され、ささげられなければなりませんでした。イスラエルの民は長男が生まれた場合、その8日目にささげられました。イエスも同じようにささげられました（ルカ 2:22-24）。それは、主がエジプトの初子を撃った時に、すべての初子は主にささげられたものとされたというところから来ています（13:15）。同時に、人間の長男は“贖われる”必要がありました。“贖う”とはこの個所では金銭で買い戻されるという意味です。その金額は銀5シェケルでした（民数 18:16）。長男は神様のものですが、買い戻しによって、両親のもとで育てられました。初子の奉獻はただ長男だから感謝して神様にささげるという意味ではなく、初子は完全に神様のものであり、神様へのささげものであるという強いメッセージがあります。私たちは今初子の奉獻をするわけではないですが、信仰により、わたしたちも神様のものであり、神様にささげられたものとなっています。また改めて、死ぬべき私たちが、イエスによる罪の“贖い”によって、買い戻され、救われていることを深めることができます。

質問

- ・聖別して、主にささげられるとは、どのような意味だと思いますか？
- ・出エジプト（主の過越、救い）の中に、初子がすべて神様のものとされたという意味もあることは、どのように思いますか？
- ・人間の長男が贖われる必要があったとは、どのような意味だったと思いますか？
- ・今日私たちは神様のものであり、神様へのささげものであるという確信はあるでしょうか？どのようにその確信を強めることができるでしょうか？具体的に考えてみましょう。
- ・この箇所から、イエスによる罪の贖いについて、深められることがあるでしょうか？